

令和 3 年 4 月 16 日

(※受付番号)

教 育 長 様

代表者 校 園 名 : 大阪市立北鶴橋小学校
 校 園 長 名 : 光 井 栄 雄
 電 話 : 06-6741-6706
 事 務 職 員 名 : 服 部 朋 美
 申 請 者 校 園 名 : 大阪市立北鶴橋小学校
 職 名 ・ 名 前 : 校 長 ・ 光 井 栄 雄
 電 話 : 06-6741-6706

研究コース
グループ研究 A
校 園 コード (代 表 者 校 園 の 市 費 コード)
671480

令和 3 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究 (1 年目)
2	研究テーマ	個性を輝かせ、Society5.0を生き抜く児童の育成 ～ すべての児童がいいきと学ぶ学校をめざして ～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>○発達障がいなどの個性を持つ児童の学ぶ力の育成 ○外国にルーツを持つ児童のアイデンティティを生かした国際社会を生き抜く児童の育成 ○コグトレ等、個の課題を緩和する先駆的学習支援方法について研究を深め、今日的課題である合理的配慮を含めた、個に応じた学習支援のスキルを高める。 ○70年の歴史をもつ国際クラブの実践を活かし、自他のアイデンティティを尊重し、多様性を受け入れるグローバル人材の育成に広げる。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>Society5.0を生き抜く力として重要視されているのは協働する力である。そのためには、自他のアイデンティティを尊重し、多様性を受け入れながら意欲的に対話を通して、学びを深め合う集団作りが必要である。一方で、適切な個別支援を必要とする児童や外国にルーツを持つ児童など個性をマイナスにとらえ生き生きと活動できていない児童が存在する。一人の力ではなく協働 (Collaborative work) が求められるこれからのSociety5.0を生き抜く児童を育成するためには、こういった児童の個性を受け入れた個別の支援を行い、その個性を輝かせることができる学校づくりが重要となってくる。その実現に向けて、本校には2つのストロングポイントがある。一つは通級教室を受け持つ特別支援教育に長けた教員の存在でありもう一つは70年の歴史を持つ国際クラブの実践実績である。この2つのストロングポイントを活かし、2つのエキスパートグループを作り、教職員間のジグソー法的研究を取り入れ、以下のような研究を行うことでテーマの実現に迫れ、今日的課題の一つの解決方法として大阪市の教育活動にも生かすことができると考える。</p> <p>①コグトレなど特別支援教育における先駆的研究について学びの研究を行い、実践に生かす。 ・専門的な知識を持った教職員が外部研究会等に参加し、校内において伝達研修を行う。 ・伝達研修をオンラインでも行い、学びを大阪市の教育にも生かす。</p> <p>②コグトレなど、児童の認知力やソーシャルスキルを高める実践を学校全体で行うことにより、児童の学ぶ意欲の向上を図る。 ・特別支援教育コーディネーターが中心となって、学校全体で実践を行う。</p> <p>③70年の歴史を持つ、国際クラブの実践を生かして、多様性を受け入れ、生かし合うことのできるグローバルな人材の育成を行う。 ・国際理解発表会において日本を含め、学校通う児童が持つルーツのある国の文化の多様性を認め合い、生かし合う心の育成を行う。</p> <p>④個々の課題に応じた効果的な支援方法についてのスキルを高めることができる。</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>5月 教員・児童へのアンケート（事前アンケート）作成・実施・分析。 校内研修を行い、国際理解教育リーダーと特別支援教育リーダーを立て、それぞれが中心となってエキスパートグループを作り、研究プログラムのプランを立てる。（Plan）</p> <p>5～7月 研究プログラムに沿って、総合的な学習の時間や朝の学習時間などを使って実践を行う。（Do）</p> <p>7月 各リーダーをもとに実践の記録を取り、取り組みを振り返りを行う。（Check） 振り返りをもとに研修計画の改善を行う。（ACT）</p> <p>8月 プロジェクトリーダーが外部研修参加し、コーディネートスキルを高める。 プロジェクトリーダーを中心に特別支援教育研修会、国際理解教育研修会を行う。 伝達研修と各エキスパートグループの学びの共有</p> <p>9～12月 研究プログラムに沿って、総合的な学習の時間や朝の学習時間などを使って実践を行う。（Do）</p> <p>11月 国際理解学習発表会を行う</p> <p>12月 各リーダーをもとに実践の記録を取り、取り組みを振り返りを行う。（Check） 振り返りをもとに研修計画の改善を行う。（ACT）</p> <p>1月 校内研究会（兼TEAMSを活用したオンライン研究会）を行う。 （職員・参加者アンケート）</p> <p>2月 教員・児童アンケート（事後アンケート）の実施 事前アンケートとの比較分析・結果の考察</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 ○コグトレ等、認知トレーニングなど、課題を抱える児童の学習に効果があるとされている実践について自分の実践にも生かすことができる人材を育てる</p> <p>《検証方法》 ・教職員アンケートの「コグトレについて理解し、実践に生かすことができますか」とい質問の事後アンケートにおいて、効果的な回答の割合を事前アンケートより高める。</p> <p>【見込まれる成果2】 ○コグトレ等、認知トレーニングなどを通して、自己肯定感や児童の学習に対する意欲が高まる。</p> <p>《検証方法》 経年調査において標準化得点が7割未満になる児童の割合を昨年度より減少させる。 児童アンケートの「コグトレの学習は楽しかったですか」という発問に対する肯定的な回答の割合が8割を超える。</p> <p>【見込まれる成果3】 ○自他のアイデンティティを大切にしながら、多様性を受け入れ、生かし合おうとするグローバルな児童を育成できる。</p> <p>《検証方法》 ・児童アンケートの「友だちの意見を取り入れながら、考えることができますか」という設問に対する肯定的な回答の割合を事前アンケートより上昇させることができる。 ・経年調査の質問紙「自分にはいいところがある」という設問に対する肯定的な回答の割合を昨年度より高める。</p>

研究コース
代表校園

グループ研究 A
大阪市立北鶴橋小学校

代表校校園コード
校園長名

671480
光井 栄雄

6	見込まれる成果とその検証方法	【見込まれる成果 4】				
		「見込まれる成果 4」の検証方法				
7	研究成果の共有方法	◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（令和4年2月25日）までに必ず行ってください。</u> ○研究発表の日程・場所（予定） <table border="1"><tr><td>日程</td><td>令和 4 年 1 月 28 日</td><td>場所</td><td>オンライン（TEAMS）</td></tr></table>	日程	令和 4 年 1 月 28 日	場所	オンライン（TEAMS）
		日程	令和 4 年 1 月 28 日	場所	オンライン（TEAMS）	
◆代表校園HPでの共有【必須】 他の共有方法を計画している場合は記載してください。						
8	代表校園長のコメント	<p>本校には70年の歴史がある国際クラブがあり、指導にあっている常勤講師も在籍している。また、通級教室もあり特別支援教育に関する知識を豊富に携えている。この2名の専門的な知識は本校のストロングポイントであり、このストロングポイントを活かした研修・研究を行い全教職員に広げ、輩出していくことは大阪市の教育推進のための責務であるとする。</p> <p>さらに、今回挙げたテーマは、大阪市教育振興基本計画の「施策6」に掲げられている国際社会において生き抜く力の育成を進めるために重要な研究であり、その研究を進めるだけのバックグラウンドが本校にはそろっていると感じる。</p> <p>本校の教職員集団それぞれの個性と2人の専門性、先駆的取り組みの取り入れの3つをジグソー法的研修を展開し、Collaborative Workを行うことで深い研修となり、教職員のスキルの向上につながると考えるとともに、本研修を経験した教職員は、他の集団においても同様にCollaborative workを行い、高め合える人材となり、今後の大阪市の教育活動を支えてくれるようになると考える。</p>				